コロナ禍の政治意識

メタデータ	言語: jpn 出版者: 明治大学政治経済研究所 公開日: 2022-05-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 井田, 正道 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10291/22475

コロナ禍の政治意識

井　田　正　道

《論文要旨》

2020年から始まった，いわゆる“コロナ禍”は広く国家的危機として認識され，政府の優先課題を大きく変化させた。当然，政権に対する国民の評価基準も新型コロナウィルス対応が重視されるようになった。そして，コロナの収束はなかなかみえず，したがってコロナ対応が最も優先される状態は長期にわたって継続している。

本研究では新型コロナ対応に関する政府・政権への有権者評価（総合的評価・各論評価）に対する規定要因の分析を行う。コロナに対するリスク感覚，自民党支持意識，政治的シニシズム，を取り上げ，それが政府・政権のコロナ対応評価を規定しているとの仮説を設定し，重回帰分析により検証をこころみる。結果，⑴コロナに対するリスク感覚は総合的評価を規定しておらず，感染リスク感覚は各論評価のなかのいくつかを規定しているにすぎない。⑵自民党支持意識はすべての評価意識を規定している。⑶政治的シニシズムはすべての評価意識を規定している。

キーワード：政治意識，Covid-19，政権評価，政治的シニシズム，リスク感覚

はじめに

本稿は，コロナ禍における政治意識調査の報告及び分析である。2020年からのいわゆる“コロナ禍”は広く国家的危機として捉えられ，政府・政権の最優先課題を一変させ，それまでの内政外交課題よりも優先度が高い政策として新型コロナウィルス対応が浮上した。しかしながら，新型コロナウィルス問題の収束はなかなかみえず，したがってコロナ対応が最も優先される

状態は長期にわたって継続し，すでに3つの内閣にわたっている。そして内閣支持率と政府のコロナ対応に対する有権者評価とのあいだには強い相関関係が認められる（井田 2021）。

それでは，内閣支持率と強い相関関係を有する政府や政権のコロナ対応に対する有権者の評価はどのような要因に規定されていたのであろうか。ここでは，規定要因に関する仮説として，コロナに対するリスク感覚，政党支持意識，政治的シニシズムを取り上げ，2021年2月に実施した意識調査の分析により考察を加える。

1. 調査概要

調査概要を以下に示す

調査目的　コロナ禍における政治意識の実態把握

調査時期　2021年2月12日（金）～14日（日）

調査方法　オンライン調査

回 収 数　600

調査時期は2回目の緊急事態宣言中の時期であった。2回目の緊急事態宣言は2021年1月8日～2月7日までの期間で設定されたが，その後，3月7日まで延長され，さらに3月21日まで再延長された。対象地域は当初は東京，神奈川，千葉，埼玉の1都3県に限定されていたが，1月13日からは大阪，兵庫，京都，愛知，岐阜，福岡，栃木が追加され，11都府県となった。

調査方法に関して，近年ではオンライン調査に基づく研究が増大しているが，オンライン調査の多くは予め調査協力者としてモニター登録をしている者に対する調査であり，本調査も同様である。ただ，モニター調査はランダ

ム・サンプリングに基づいておらず，母集団の代表性が理論的に保証されていないという問題が存在し，近年増えつつあるオンラインによるモニター調査により収集したデータの分析による学会報告に対しては，当該データが学術的分析に耐えないのではないかという疑問も投げかけられている。メディアが実施する定例の世論調査においては，標本集団は母集団の縮図であることが要求されるためにサンプリング方法としてはランダム・サンプリングがほぼ必須となっているが，学術調査においては変数間の関係性の分析を主な目的とするものが多く，メディアの世論調査に比して代表性が求められない，という暗黙の了解が存在するようである。とはいえ，比較政治学的分析を行う際にはサンプルの代表性の重要性は高まる。

オンラインによるモニター調査に対する批判は回答者集団の代表性のみにとどまらず，収集したデータそのものの信頼性にも向けられている。というのは，モニター登録をして調査に協力する動機として何らかの経済的利益の追求（例えばポイントを獲得することで何らかの財を得ることが可能となる）という面があり，そのため，経済的利益を得るためにモニター登録を行い，調査に対してはポイントを増やすために，数をこなし，質問文や回答選択肢をしっかり読まずにいいかげんな回答を行う回答者の存在が疑われる。この点に関しては，調査会社によっては回答時間や回答傾向などについて何らかの基準を設定し，「いいかげんな回答」と疑われる回答を回答者集団から除外するなどの対応が行われている。

筆者は，近年になってオンライン調査に基づく分析を発表する際には回答者の属性分布を示す必要があるのではないかと考えるようになり，2020 年に発表した論文において回答者の属性分布を論文上に記載した（井田 2020）。本稿においても，回答者の属性分布を示しておく。

回答者内訳

性別　男289（48.2%），女311（51.8%）

年代　20代68（11.3%），30代89（14.8%），40代106（17.7%），50代90（15.0%），60代161（26.8%），70代以上86（16.3%）

婚姻　未婚172（28.7%），既婚（離別・死別含む）428（71.3%）

子どもの有無　いる347（57.8%），いない253（42.2%）

職業　会社勤務（一般社員）103（17.1%），会社勤務（管理職）36（6.0%），会社経営9（1.5%），公務員・教職員・非営利団体職員28（4.7%），派遣社員・契約社員43（7.2%），自営業（商工サービス）17（2.8%），SOHO 6（1.0%），農林漁業5（0.8%），専門職（弁護士・税理士・医療関連）13（2.2%），パート・アルバイト72（12.0%），専業主婦・主夫139（23.2%），学生7（1.2%），無職112（18.7%），その他の職業10（1.7%）

地域　北海道東北55（9.2%），関東237（39.5%），中部北陸119（19.8%），近畿97（16.2%），中四国45（7.5%），九州沖縄47（7.8%）

2. 単純集計

次に，コロナ関連質問項目の単純集計結果を示し，簡単な説明を付す。

Q 1.　新型コロナウィルスにご自分やご家族が感染することについて，不安をお感じですか。

「1. 大いに感じる」35.2%，「2. ある程度感じる」47.0%，「3. あまり感じない」10.3%，「4. まったく感じない」3.8%，「5. わからない」3.7%

Q 2.　もしあなたがコロナに感染した場合，重症化するリスクはあると思いますか。

「1．大いにあると思う」22.8%，「2．ある程度あると思う」41.2%，「3．あまりないと思う」21.5%，「4．まったくないと思う」3.8%，「5．わからない」10.7%

Q 3.　政府の新型コロナウィルス対応についてどのように評価されますか。

「1．大いに評価する」2.3%，「2．ある程度評価する」28.3%，「3．あまり評価しない」41.8%，「4．全く評価しない」19.8%，「5．わからない」7.7%

Q 4.　新型コロナウィルス問題は，今年中に収束すると思われますか。

「1．思う」8.8%，「2．思わない」70.8%，「3．わからない」20.3%

Q 5-1.　菅政権の新型コロナウィルス対応についてどのように考えますか。
／全体としてよくやっている

「1．そう思う」3.5%，「2．ややそう思う」19.5%，「3．どちらともいえない」31.3%，「4．ややそうは思わない」20.5%，「5．そうは思わない」25.2%

Q 5-2.　菅政権の新型コロナウィルス対応についてどのように考えますか。
／Go to トラベルの政策は適切だった。

「1．そう思う」3.8%，「2．ややそう思う」6.8%，「3．どちらともいえない」22.7%，「4．ややそうは思わない」20.5%，「5．そうは思わない」46.2%

Q 5-3.　菅政権の新型コロナウィルス対応についてどのように考えますか。
／専門家の意見をよく聞いている

「1．そう思う」3.0%，「2．ややそう思う」16.0%，「3．どちらともいえない」37.7%，「4．ややそうは思わない」22.5%，「5．そうは思わない」20.8%

Q 5-4.　菅政権の新型コロナウィルス対応についてどのように考えますか。
／経済よりも感染拡大防止を優先している

「1．そう思う」3.5%，「2．ややそう思う」11.7%，「3．どちらともいえない」29.7%，「4．ややそうは思わない」25.0%，「5．そうは思わない」30.2%

Q 5-5.　菅政権の新型コロナウィルス対応についてどのように考えますか。
／国民に対する発信力が高い

「1．そう思う」1.5%，「2．ややそう思う」7.0%，「3．どちらともいえない」29.5%，「4．ややそうは思わない」26.3%，「5．そうは思わない」35.7%

Q 5-6.　菅政権の新型コロナウィルス対応についてどのように考えますか。
／1月の緊急事態宣言の発出は時期的に適切であった

「1．そう思う」4.5%，「2．ややそう思う」14.0%，「3．どちらともいえない」26.2%，「4．ややそうは思わない」23.2%，「5．そうは思わない」32.2%

Q 5-7.　菅政権の新型コロナウィルス対応についてどのように考えますか。
／諸々の対策は後手に回っている

「1．そう思う」38.2%，「2．ややそう思う」26.5%，「3．どちらともいえない」23.7%，「4．ややそうは思わない」5.0%，「5．そうは思わない」6.7%

Q 5-8.　菅政権の新型コロナウィルス対応についてどのように考えますか。
／もっと経済を優先すべきである

「1．そう思う」4.8%，「2．ややそう思う」7.3%，「3．どちらともいえない」45.8%，「4．ややそうは思わない」21.8%，「5．そうは思わない」20.2%

以下，回答結果を簡潔に整理する。

- Q 1　自身あるいは家族の感染リスクについては 8 割を超える回答者が「大いに感じる」または「ある程度感じる」と回答しており，ほとんどの回答者が感染リスクを意識している。
- Q 2　重症化リスクについては，「大いに」あるいは「ある程度」あると回答した割合が 6 割強に達している。
- Q 3　政府の新型コロナウィルス対応に対しては約 3 割が肯定的，約 6 割が批判的な評価となっている。
- Q 4　2021 年 2 月時点で，コロナ禍が今年中に収束するという見通しを示した回答者は 1 割に満たず，7 割が収束しないと考えていた。
- Q 5-1 菅政権のコロナ対応に関する全体的評価は肯定的評価が 2 割強であり，否定的評価はその約 2 倍となっている。
- Q 5-2「Go To トラベル」については肯定的意見を表明した回答者は約 1 割であり，否定的評価が 3 分の 2 にのぼる。
- Q 5-5 国民に対する発信力については，約 6 割の回答者が菅首相は発信力が弱いとみなしており，それが高いとみなしている回答者は 1 割に満たない。
- Q 5-4 と Q 5-8 は経済の優先度に関する質問であるが，回答者の多くは経済よりも感染拡大防止を優先してほしいと考えており，菅政権がその要望に答えていないという回答分布となっている。
- Q 5-6 と Q 5-7 の回答分布から，緊急事態宣言の発出時期については批判的な意見が多く，菅政権の対応が後手に回っているとみている。

3. 仮　　説

これからコロナ対応評価分析の規定因分析を行う。分析手法としては重回帰分析を用いる。分析にあたって次の 3 つの仮説を設定した。

H1　新型コロナウィルスに対するリスク感覚が高いほど，政府・政権の対応に対して批判的な評価を下す傾向がある。

H2　自民党支持度が高いほど，政府・政権の対応に対して肯定的な評価を下す傾向がある。

H3　政治的シニシズムの度合いが高いほど，政府・政権の対応に対して批判的な評価を下す。

以下，各仮説について説明する。

H1　新型コロナウィルスに対するリスク感覚が高いほど，政府・政権の対応に対して批判的な評価を下す傾向がある。

本調査でのリスク感覚に関する質問はQ1とQ2である。Q1は感染リスク，Q2は感染した場合の重症化リスクに関する質問である。リスク感覚が高いほど政府のコロナ対応に関して関心が高くなり，さらに政府・政権の評価基準が厳しくなる。したがって，政府のコロナ対応などに対して批判的な評価を下す傾向があると考えた。

従属変数に感染リスク（Q1　逆転　「わからない」除外），重症化リスク（Q2　逆転　「わからない」除外），政府の新型コロナ対応評価（Q3　逆転「わからない」除外）を投入し，独立変数に社会的属性変数を投入した。独立変数に投入した変数は女性ダミー，年齢（20代ダミー，30代ダミー，40代ダミー，50代ダミー，60代ダミー，70以上ダミー），居住地域（北海道東北ダミー，関東ダミー，中部北陸ダミー，近畿ダミー，中四国ダミー，九州沖縄ダミー），婚姻状況（既婚ダミー），子の有無（子ありダミー），である。逆転とは回答選択肢を1→4，2→3，3→2，4→1と変換したものである。

分析結果を表1に示す。独立変数に関して，年代ダミーのなかで除外された変数は60代ダミー，地域ダミーに関して除外された変数は関東ダミーと

表 1　リスク感覚の規定因（属性変数）

独立変数	従属変数					
	感染不安（逆転）			重症化リスク（逆転）		
	B	SE		B	SE	
（定数）	3.129	.113	**	3.213	.117	**
女性 D	.161	.064	*	.042	.067	
20 代 D	− .309	.130	*	− .810	.134	**
30 代 D	− .053	.111		− .478	.117	**
40 代 D	.117	.103		− .265	.108	*
50 代 D	.075	.104		− .223	.108	*
70 以上	.145	.103		.224	.106	*
北東北 D	− .081	.115		− .093	.119	
中部 D	− .160	.088		− .144	.093	
近畿 D	− .040	.094		− .187	.096	
中四国 D	− .133	.129		− .049	.131	
九州沖縄 D	− .161	.126		.015	.133	
既婚 D	− .101	.106		− .126	.111	
子供有 D	.159	.096		.097	.099	
調整済み R^2	.034			.028		

** $p < .01$　　* $p < .05$

なった。感染リスクに関しては女性が感染リスク感覚を高める要因として検出され，若い年代が感染リスク感覚を減じる変数となっている。重症化リスク感覚の規定因として検出されたのは年代変数のみであった。若くなるほど，リスク感覚が低く，年齢が上がるにつれてリスク感覚が高い。重症化リスクは感染リスク以上に年齢の規定力が高い。

H 2　自民党支持度が高いほど，政府・政権の対応に対して肯定的な評価を下す傾向がある。

ミシガンモデルにおいて中心概念となった政党帰属意識（Party Identification）において，その機能のひとつに政治的意見形成機能が指摘された

(Campbell et al. 1960)。日本でも三宅一郎により政党支持の規定性が指摘されている（三宅 1989)。本調査時は自民党中心の政権であることから自民党に対する支持の度合いが政府や政権の頃な対応評価を規定すると考えられる。本調査では，主要6政党（自民党，立憲民主党，公明党，共産党，日本維新の会，国民民主党）に対して各々「1．支持する」「2．やや支持する」「3．どちらともいえない」「4．やや支持しない」「5．支持しない」の5つの選択肢からひとつを選んでもらった。自民党に対する支持度分布は「支持する」9.2%，「やや支持する」16.8%，「どちらともいえない」36.2%，「やや支持しない」11.5%，「支持しない」26.3%，であった。連立政権のパートナーである公明党に対する支持度と自民党支持度との相関係数は .409 であり，自民党支持度と相対的に最も強い相関が認められた（表2参照)。菅首相が自民党所属であることから，ここでは自民党支持度で政党支持態度を代表させることにする。

表2　政党支持度の相関係数

	立民支持	公明支持	共産支持	維新支持	国民支持
自民支持	− .057	.409**	−.098*	.288**	.089*
立民支持		.364**	.635**	.236**	.661**
公明支持			.331**	.445**	.459**
共産支持				.219**	.576**
維新支持					.486**

** $p < .01$　　* $p < .05$

H3　政治的シニシズムの度合いが高いほど，政府・政権の対応に対して批判的な評価を下す。

政治的シニシズムとは，和訳すれば政治的冷笑主義ということになろう。政治的態度研究では政治不信の下位カテゴリーとして位置づけられる(Robinson, Shaver, and Wrightsman, 1999)。しかしながら，政治的シニ

シズムに関する性質，計測方法についてはコンセンサスが存在しるとまでは言い難い。日本では蒲島郁夫と竹中佳彦が政治的シニシズムを「政治を冷ややかに見下し，政治に積極的に関わっても現状に変化はないという意識」と述べている（蒲島・竹中 1996）。また，シニシズムの前提として，人間の行為がほとんど自己利益に基づく行為と認識すること前提とする意見は傾聴に値する（de Vreese 2008）。ここでは「政治家を利己的人間とみなし，政治家の能力や活動に対する冷ややかな態度」を政治的シニシズムとして定義する。

日本においては，岡村忠夫の政治的社会化に関するパイオニア的研究から日本の子どもたちが総理大臣や政治家に対して利己的人物というイメージが形成されるという知見を提示した（岡村 1971）。これは言ってみれば初期社会化過程で政治的シニシズムが形成されているということになる。筆者も大学生調査の分析から政治的シニシズムの形成を指摘した（井田 2009）。ただ，日本において政治的シニシズムに関する有力なスケールが開発されたとは言い難く，また外国の研究で開発された政治的シニシズムのスケールのなかで和訳して日本にフィットするものも見当たらない。そこで従来の政治的シニシズム研究で用いられた様々な政治的シニシズムスケールを検討し，以下のような指標を作成した。

政治的シニシズムに関する質問は次のように行った。

Q15　政治家に関するつぎのような意見について，あなたはどのように考えますか。

Q15-1　政治家は自分のような境遇の人々のことを考えてくれている。

Q15-2　政治家は自分のことばかり考えている。

Q15-3　政治家はいろいろなことを語るが，大事な問題を解決する力がほとんどない。

Q15-4　政治家は一部の団体の利益よりも国民全体の利益を優先している。

Q15-5　多くの政治家は選挙公約の実現に向けて努力している。

Q15-6　いったん政治家になると誠実であることは望めない。

それぞれの質問に対して，「1．そう思う」，「2．ややそう思う」，「3．どちらともいえない」，「4．ややそうは思わない」，「5．そうは思わない」の回答選択肢を提示し，シングル・アンサー方式で回答してもらった。

6つの質問のうち，Q 15-1, Q 15-4, Q 15-5 は政治家に対するポジティブな記述であり，残りの3問（Q 15-2, Q 15-3, Q 15-6）はネガティブな記述である。そこで各回答を次のようにリコードした。

Q15-1, Q15-4, Q15-5

4，5　→1

1，2，3　→0

Q15-2, Q15-3, Q15-6

1，2　→1

3，4，5　→0

各質問の得点1のパーセンテージは以下のようであった。

Q15-1　政治家は自分のような境遇の人々のことを考えてくれている。64.5%

Q15-2　政治家は自分のことばかり考えている。70.8%

Q15-3　政治家はいろいろなことを語るが，大事な問題を解決する力がほとんどない。64.4%

Q15-4　政治家は一部の団体の利益よりも国民全体の利益を優先している。59.5%

Q15-5　多くの政治家は選挙公約の実現に向けて努力している。50.4%

Q15-6　いったん政治家になると誠実であることは望めない。55.3%

そして 1, 0 に変換したものを合計し，それが高いほどシニシズムの度合いが高く，低いほどシニシズムの度合いが低いと判断する。その分布は 0 点 17.0%，1 点 7.3%，2 点 5.2%，3 点 12.3%，4 点 9.7%，5 点 19.5%，6 点 29.0%であった。回答者の約半数が 5 点または 6 点の高シニシズム層であった。

表 3 には性別・年代別にシニシズム得点分布を示す。表の右端の欄は得点が 5 点と 6 点の割合を合計した高シニシズム層のパーセンテージを示す。男女別には統計的有意差（χ^2 検定　$p < .05$）が認められず，年代別には有意差が認められた。高シニシズム層のパーセンテージは 70 歳以上で最も高く，64%に達しているのに対して 20 代では 25%にとどまる。これは 20 代で各質問に「どちらともいえない」を選択した者が多いことが反映されている。

表 3　性・年代別シニシズム得点分布

	シニシズム得点								
	0	1	2	3	4	5	6	計	5+6
男	19.4	5.9	5.2	11.8	8.7	20.8	28.4	100	49.1
女	14.8	8.7	5.1	12.9	10.6	18.3	29.6	100	47.9
20 代	30.9	7.4	7.4	17.6	11.8	13.2	11.8	100	25.0
30 代	20.2	6.7	10.1	14.6	5.6	12.4	30.3	100	42.7
40 代	16.0	8.5	2.8	12.3	9.4	19.8	31.1	100	50.9
50 代	24.4	4.4	4.4	7.8	14.4	20.0	24.4	100	44.4
60 代	9.9	9.3	5.0	12.4	9.3	18.6	35.4	100	54.0
70 代以上	9.3	5.8	2.3	10.5	8.1	32.6	31.4	100	64.0

4. 分　析

従属変数に投入した変数は，政府の新型コロナ対応評価（Q3　逆転「わからない」除外），菅政権の新型コロナ対応評価（Q5-1〜Q5-7，Q5-1からQ5-6は逆転）である。逆転とは，例えば回答選択肢が5つある場合，1→5，2→3，4→2，5→1，にリコードしたことを意味する。Q3に関して

表4　新型コロナ対応評価の規定因（1）

	従属変数											
	政府対応評価（逆転）						菅政権対応評価（逆転）					
	B	SE		B	SE		B	SE		B	SE	
（定数）	1.694	.211	**	1.464	.168	**	1.977	.296	**	2.203	.235	**
女性D	.094	.060					.149	.085				
20代D	−.187	.128					.183	.178				
30代D	−.411	.107	**				−.193	.151				
40代D	−.223	.099	*				−.004	.138				
50代D	−.092	.099					.117	.139				
70以上	.014	.095					.028	.135				
北東北D	−.025	.118					.192	.166				
関東D	.010	.083					.007	.118				
近畿D	.138	.100					.139	.141				
中四国D	−.109	.128					−.283	.180				
九州沖縄D	.093	.130					.222	.184				
既婚D	−.003	.101					.249	.141				
子供有D	−.015	.090					−.066	.126				
感染不安（逆転）	.033	.046		.024	.046		−.037	.065		−.029	.064	
重症化リスク（逆転）	.028	.047		.080	.045		.003	.065		.009	.062	
自民支持度（逆転）	.235	.025	**	.240	.025	**	.365	.035	**	.370	.035	**
シニシズム得点	−.078	.015	**	−.070	.015	**	−.156	.021	**	−.159	.021	**
調整済み R^2	.267			.242			.339			.326		

** $p < .01$　　* $p < .05$

表 5　新型コロナ対応評価の規定因（2）

	従属変数											
	GO To 評価（逆転）						専門家意見（逆転）					
	B	SE		B	SE		B	SE		B	SE	
（定数）	2.203	.296	**	2.567	.236	**	2.614	.294	**	2.396	.233	**
女性 D	− .169	.085	*				− .114	.085				
20 代 D	.485	.178	**				− .102	.177				
30 代 D	.139	.151					− .231	.150				
40 代 D	.213	.138					− .078	.137				
50 代 D	.147	.139					.132	.138				
70 以上	.146	.135					.293	.134	*			
北東北 D	.340	.166					.058	.165				
関東 D	.047	.118					− .051	.117				
近畿 D	.078	.141					.044	.140				
中四国 D	.008	.180					− .418	.179	*			
九州沖縄 D	.621	.184					.299	.183				
既婚 D	− .139	.140					− .035	.140				
子供有 D	.066	.126					− .012	.125				
感染不安（逆転）	− .277	.065	**	− .295	.065	**	− .115	.064		− .128	.064	*
重症化リスク（逆転）	.025	.065		− .007	.062		− .046	.064		.004	.062	
自民支持度（逆転）	.299	.035	**	.299	.035	**	.318	.035	**	.324	.035	**
シニシズム得点	− .088	.021	**	− .114	.021	**	− .081	.021	**	− .082	.020	**
調整済み R^2	.295			.326			.241			.155		

** $p < .01$　　* $p < .05$

は，「5．わからない」を除外したことから，1 → 4，2 → 3，3 → 2，4 → 1，にリコードしたことを意味する。

分析結果を表 4 から表 7 に示す。独立変数に投入した変数は属性変数，および感染リスク（逆転），重症化リスク，自民党支持度，政治的シニシズム得点，である。結果は属性変数を含めたものと，それらを除外したものを示す。属性変数に関して除外された変数は 60 代ダミーと中部北陸ダミーである。

表 6　新型コロナ対応評価の規定因（3）

	従属変数											
	感染対策優先（逆転）						発信力（逆転）					
	B	SE		B	SE		B	SE		B	SE	
（定数）	2.154	.318	**	2.526	.254	**	2.025	.270	**	2.138	.213	**
女性 D	.120	.091					.115	.078				
20 代 D	.395	.191	*				.167	.162				
30 代 D	− .074	.162					− .070	.137				
40 代 D	.147	.148					− .020	.126				
50 代 D	.238	.149					.099	.127				
70 以上	.323	.145	*				.058	.123				
北東北 D	.393	.178	*				− .008	.151				
関東 D	.077	.126					− .049	.107				
近畿 D	.177	.151					.070	.129				
中四国 D	− .067	.193					− .059	.164				
九州沖縄 D	.359	.198					.432	.168	*			
既婚 D	− .307	.151	*				− .157	.128				
子供有 D	.438	.135	**				.119	.115				
感染不安（逆転）	− .119	.070		− .108	.070		− .025	.059		− .025	.058	
重症化リスク（逆転）	− .038	.070		− .020	.067		− .004	.059		− .006	.056	
自民支持度（逆転）	.243	.038	**	.230	.038	**	.244	.032	**	.243	.032	**
シニシズム得点	− .092	.023	**	− .109	.022	**	− .145	.019	**	− .156	.019	**
調整済み R^2	.189			.155			.279			.270		

** $p < .01$　　* $p < .05$

以下，従属変数ごとに分析結果を解説する。

- 政府のコロナ対応評価に関しては属性変数を加えるか否かに関わらず，自民党支持度と政治的シニシズムが規定因として検出された。自民党支持度が高いこと，シニシズムが低いことが肯定的評価につながっている。
- 菅政権のコロナ対応評価（「全体としてよくやっている」）に関しても，属性変数を加えるか否かに関わらず，自民党支持度と政治的シニシズムが規定因として検出された。自民党支持度が高いこと，シニシズムが低いこと

表 7　新型コロナ対応評価の規定因（4）

	従属変数											
	緊急事態宣言適切（逆転）						後手に回っている（逆転）					
	B	SE		B	SE		B	SE		B	SE	
（定数）	1.858	.338	**	2.045	.265	**	2.507	.330	**	3.086	.259	**
女性 D	.147	.097					.088	.095				
20 代 D	.201	.203					.559	.198				
30 代 D	− .084	.172					.311	.168				
40 代 D	− .098	.158					.043	.154				
50 代 D	.205	.159					− .002	.155				
70 以上	− .051	.154					.080	.150				
北東北 D	.174	.189					.253	.185				
関東 D	.019	.134					.064	.131				
近畿 D	− .025	.161					.128	.157				
中四国 D	− .065	.205					.104	.200				
九州沖縄 D	.116	.210					.144	.205				
既婚 D	− .182	.160					.223	.156				
子供有 D	.269	.144					− .057	.140				
感染不安（逆転）	− .010	.074		− .001	.073		− .121	.072		− .117	.071	
重症化リスク（逆転）	.017	.074		.014	.070		.003	.072		− .045	.068	
自民支持度（逆転）	.288	.040	**	.281	.039	**	.095	.039	**	.090	.038	*
シニシズム得点	− .116	.024	**	− .128	.023	**	− .170	.023	**	− .183	.023	**
調整済み R^2	.183			.182			.168			.165		

** $p < .01$　　* $p < .05$

が肯定的評価につながっている。

- 「Go to トラベルの政策は適切だった」に関しては，属性変数を加えるか否かに関わらず，感染リスク感覚，自民党支持度，政治的シニシズムが規定因として検出された。感染リスク感覚とシニシズムはネガティブ方向に規定している。
- 「専門家の意見をよく聞いている」に関しては，属性変数を加えた場合，自民党支持度とシニシズムが規定要因として検出され，独立変数に意識変

数のみを投入した場合には，感染リスク感覚も規定因として検出された。感染リスク感覚とシニシズムはネガティブ方向に規定している。

- 「経済よりも感染拡大防止を優先している」に関しては，属性変数を加えるか否かに関わらず，自民党支持度と政治的シニシズムが規定因として検出された。自民党支持度が高いこと，シニシズムが低いことが肯定的評価につながっている。
- 「国民に対する発信力が高い」に関しても，属性変数を加えるか否かに関わらず，自民党支持度と政治的シニシズムが規定因として検出された。自民党支持度が高いこと，シニシズムが低いことが肯定的評価につながっている。
- 「1月の緊急事態宣言の発出は時期的に適切であった」に関しても，属性変数を加えるか否かに関わらず，自民党支持度と政治的シニシズムが規定因として検出された。自民党支持度が高いこと，シニシズムが低いことが肯定的評価につながっている。
- 「諸々の対策は後手に回っている」に関しても，属性変数を加えるか否かに関わらず，自民党支持度と政治的シニシズムが規定因として検出された。自民党支持度が高いこと，シニシズムが低いことが肯定的評価につながっている。

結　論

最後に，H1からH3に関する結論を示す。

H1　限定的支持。感染不安，重症化不安といったコロナに対するリスク感覚は政府のコロナ対応評価，菅政権のコロナ対応全体評価といった総合的評価を規定していない。また，「経済よりも感染拡大防止を優先している」，「発信力がある」，「諸々の対策は後手に回っている」，

「緊急事態宣言の発出は適切であった」に関してもこれら2つの独立変数は規定因として検出されなかった。他方で，「GO TO トラベル」および「専門家の意見を聞いている」に関しても感染不安度がネガティブに規定している。つまり，感染拡大に関わる各論のいくつかに関してのみ，感染リスク感覚が規定因として検出された。重症化リスク感覚は何れの従属変数に対しても規定因として検出されなかった。

H2　支持。自民党支持度はすべての従属変数（評価項目）においてポジティブな方向に規定している。つまり自民党に対する支持度が高いほど，肯定的に支持している。換言すれば自民党に対する不支持度が高いほど否定的評価を下す。これは政党支持の規定性という従来の知見を追認する結論である。

H3　支持。政治的シニシズム得点はすべての評価項目においてネガティブな方向に規定している。つまり政治的シニシズム得点が高くなるにつれてコロナ対応評価はネガティブになる。

このように，H1に関しては一部支持にとどまったが，H2およびH3は全面支持という結果となった。政治的シニシズムに関しては，独自のスケールを開発し，同スケールはすでに2017年総選挙と2019年参院選の際に行った2度の調査でも質問項目に設定した。機を改めて政治的シニシズムと他の政治的態度や投票行動との関係性についても発表したいと考えている。

文　献

井田正道（2009）「大学生の政治観に関する分析」『Informatic』Vol. 2-2.

井田正道（2020）「第二次安倍政権評価に関する分析」『政経論叢』第88巻5・6号。

井田正道（2021）「総選挙のポイント整理 ──「コロナ選挙」をみる目 ──」『改革者』2021年9月号，政策研究フォーラム。

岡村忠夫（1971）「現代日本における政治的社会化 ── 政治意識の培養と政治家像 ──」『年報政治学　1970　現代日本における政治意識の形成と構造』（日本政治学会）岩波書店。

蒲島郁夫・竹中佳彦（1996）『現代日本人のイデオロギー』東京大学出版会。
三宅一郎（1989）『投票行動』東京大学出版会。
Campbell, A., P. E. Converse, W. E. Miller, and D. E. Stokes. 1960. *The American Voter.* New York: Wiley.
Robinson, J. P. P. R. Shaver, and L. S. Wrightsman, eds. (1999) *Measurement of Political Attitudes,* Emerald Publishing Ltd.
de Vreese, C. H. (2008) Political Cynicism — de Vreese — Major Reference Works — Wiley Online Library 2021 年 8 月 13 日閲覧。